

練習問題の進め方

- ① 半分に紙を折って、問題を解いていく。
- ② 解答を見て、丸つけをする。
(時間内に終わらなかったら、家に持って帰って最後までしよう！)
- ③ このプリントは、後日配る国語ファイル2年にとじる予定なので、なくさないように教科書等に挟んでおく。

次回登校した時に提出する物

2年基礎の学習ワーク(4〜9ページまで書いて丸つけをしたもの)

連体詞 練習問題 二年 組 (名前)

1次の——線部が連体詞であるほうを選び、記号を○で囲みましょう。

- ① ア ある日、わたしは夜明けに目を覚ました。
イ そこに置いてある本を取ってください。
- ② ア さる十月、京都旅行をしてきた。
イ 東京を去る日も近づいてきた。

2次の文の連体詞に——線を引きましょう。

- ① 見たところ、たいしたけがではなさそうだ。
- ② 例の件は順調に進んでいる。
- ③ あらゆる失敗は、小さなミスから起こるものだ。

3次の——線部の単語から連体詞を選び、線の右側に○をつけましょう。

彼は、そこにある巻き物の、ほんの一部しか見なかった。しかし、

それだけでも、その巻き物が、たいした価値のあるのだとわかった。

連体詞 練習問題 解答

1 次の——線部が連体詞であるほうを選び、記号を○で囲みましょう。

① ア ある日、わたしは夜明けに目を覚ました。

イ そこに置いてある本を取ってください。

② ア さる十月、京都旅行をしてきた。

イ 東京を去る日も近づいてきた。

2 次の文の連体詞に——線を引きましょう。

① 見たところ、たいしたけがではなさそうだ。

② 例の件は順調に進んでいる。

③ あらゆる失敗は、小さなミスから起こるものだ。

3 次の——線部の単語から連体詞を選び、線の右側に○をつけましょう。

彼は、そこにある巻き物の、ほんの一部しか見なかった。しかし、

それだけでも、その巻き物が、たいした価値のあるものだとわかった。

副詞 練習問題

二年 組 () (名前) ()

1 次の () に適する状態の副詞を□から選び、書きましょう。

- ① () () しておく。
- ② () () 走る人がいる。
- ③ () () つまみ食いをする。
- ④ () () 汗が引く。

すつと	そつと
ゆつくり	こつそり

2 次の ———— 線部の副詞が修飾している文節に、波線を引きましょう。

(例) 風は かなり 強い。

- ① ねこが チョウを じつと 見つめる。
- ② かなり ゆつくり 歩いた。
- ③ すぐに 準備を 始める。
- ④ 雨は だいぶ 強く 降って いるようだ。
- ⑤ 前を 歩く 人が しきりに うしろを ふり返る。

3 次の ———— 線部から副詞と連体詞を選び、副詞には副を、連体詞には連を、線の右側に書きましょう。

メロス^は、我が身にむち打ち、ついに出発を決意した。明日の日没までには、まだ十分の時がある。ちよつとひと眠りして、それからすぐに出発しよう、と考えた。そのころには、雨も小降りになつていよう。少しでも長くこの家にぐずぐずとどまっていたかつた。

副詞 練習問題 解答

1 次の () に適する状態の副詞を□から選び、書きましよう。

- ① (そつと) () しておく。
- ② (ゆっくり) () 走る人がいる。
- ③ (こっそり) () つまみ食いをする。
- ④ (すつと) () 汗が引く。

すつと	そつと
ゆっくり	こっそり

2 次の ———— 線部の副詞が修飾している文節に、波線を引きましよう。

(例) 風は かなり 強い。

- ① ねこが チョウを じつと 見つめる。
- ② かなり ゆっくり 歩いた。
- ③ すぐに 準備を 始める。
- ④ 雨は だいぶ 強く 降って いるようだ。
- ⑤ 前を 歩く 人が しきりに うしろを 振り返る。

3 次の ———— 線部から副詞と連体詞を選び、副詞には副を、連体詞には連を、線の右側に書きましよう。

メロス^連は、我が身^副にむち打ち、つい^副に出発^副を決意^副した。明日^副の日没^副までには、まだ十分^連の時^副がある。ちよつと^副ひと眠り^副して、それから^副すぐに^連出発^副しよう、と^副考えた。そのころ^連には、雨も小降り^副になつていよう。少しでも長く^副この家^副に^副ぐずぐず^副と^副どまつていたかつた。